



## 喜多埜

### 祈年祭

「祈年祭」とは、その年の豊年と国の繁栄をお祈りするお祭りです。十一月二十三日の新嘗祭(にいなめさい)＝収穫感謝のお祭り)と対をなす神事として、二月十七日に皇居の宮中三殿で天皇陛下を始め、全国の神社でも執り行なわれる大祭です。

音韻は「きねんさい」と読む場合が多いのですが、古くは「としごいのまつり」と読み、豊作を乞い祈る祭という意味があります。現在は豊作の祈願だけではなく、日本の産業全体の発展を祈念する神事とされています。

歴史は古く、七世紀後半の天武天皇の御代にはすでに執り行われていた記録があり、太陽の神さまである天照大御神の神事として、伊勢の神宮では古くから祭祀が厳修されてきました。

明治の改暦以前は旧暦二月四日(現在の暦では三月初旬に該当)に執り行なわれるお祭りでしたが、改暦後、二月十七日(その日にあてられるようになりました。しかし北海道などでは未だに厳冬期ですので四月にしたり、当宮のように御祭神の縁日(当宮では神事のみを十五日に斎行)にあてたり、お稲荷さんの縁日である初午の日や、三月の春祭の日にあてるなど、それぞれの地域の「春」を祝う日と習合している神社も多いようです。

元旦が「いのち」の平安を祈るのに対して、祈年祭は「仕事」の成就を祈る神事です。己の「なりわい」を全うできるよう、春を祈る心の暖かさを大切にしたいものです。

### 御旅社の盆梅

茶屋町の御旅社では、二月十一日頃から二月下旬頃まで、参道の階段で小さな盆梅を六鉢ほど置き飾っております。

梅の花はいうまでもなく、御祭神であります天神さまのお好きな花であります。

梅の花は真冬の寒さの中で、つぼみに少しずつ力を蓄え、春がきたら、いち早く春を忘れずに咲く百花の魁ともいわれています。

いま景気は冷え込み、まことに真冬のようにですが、春を忘れてしまつては春はやってきません。梅の花のように、真冬に耐えて春が来たならば花を咲かせられるよう、「いのち」を慈しみ、春の訪れを盆梅で愛で下さい。

### 菜の花のイベント

来月の三月六日(土)、七日(日)の両日、茶屋町の御旅社を中心に、菜の花にちなむイベントが行われます。

茶屋町は江戸時代まで菜種油を採るために、菜の花が多く植えられた地域であり、俳人の与謝蕪村が「菜の花や 月は東に 日は西に」と詠むなど、一面の菜の花畑が有名で、数多くの芸術家はその風情を愛でていました。

七日には当宮御旅社において落語会(有料)も催す予定となっております。どうぞ六日、七日は茶屋町にお越し下さい。

### 桂佐ん吉さん落語会

来月の三月一六日(火)の午後七時頃から、茶屋町の御旅社で人間国宝、桂米朝さんのお弟子さんの桂佐ん吉の落語会があります。(有料)詳細は米朝事務所までお問い合わせ下さい。

米朝事務所 06-6365-1828-1

### 神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、au、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀知

